

# 「侍中群要」を見比べる

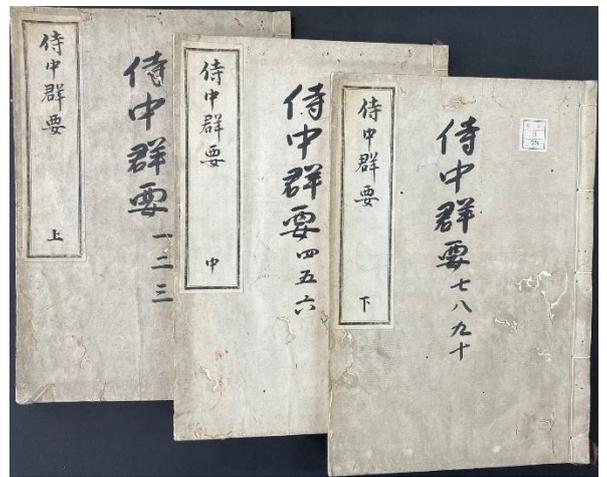
## ○「侍中群要」とは？

宮中の役職である蔵人(=侍中)の職務について記された資料。

蓬左文庫所蔵の2種は卷子本(=巻物)で10巻10軸、鶴舞中央図書館所蔵のものは冊子本で10巻3冊の形式。

## ○河村文庫本「侍中群要」を見る(鶴舞中央図書館所蔵)

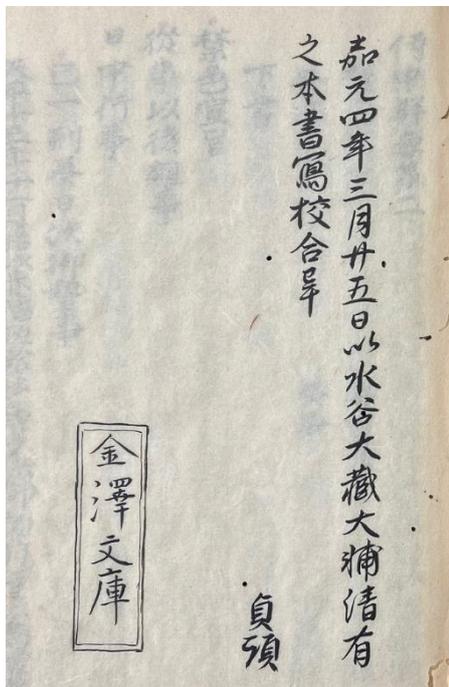
河村文庫とは、尾張藩士の学者一族である河村秀穎(ひでかい)、秀根(ひでね)、益根(ますね)の旧蔵書。現在は鶴舞中央図書館が所蔵している。尾張藩では徳川家康から譲り受けた「駿河御譲本」を始めとした大量の書物を「御文庫」として整理し、藩士らに貸出して研究させていた。河村文庫本「侍中群要」は、河村秀根自筆の写本。文字修正や改行の位置から蓬左文庫所蔵の寛永元年写本をもとに写したと推察される。「御文庫」の本を借りて書写したとわかる、とってもすごい資料なのである!



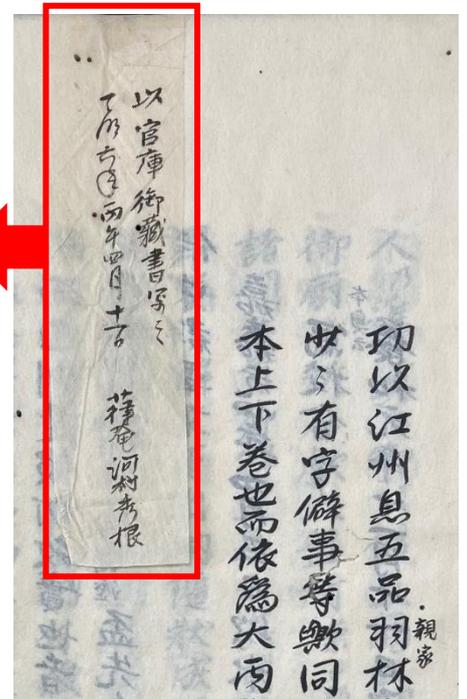
河村文庫本「侍中群要」表紙

↓ 上巻一の奥書(最後)の部分  
「金沢文庫」の印が手書きされている!

下巻十の奥書(最後)の部分 ↓  
付箋に官庫(御文庫)から本を借りて写したことが書かれている!

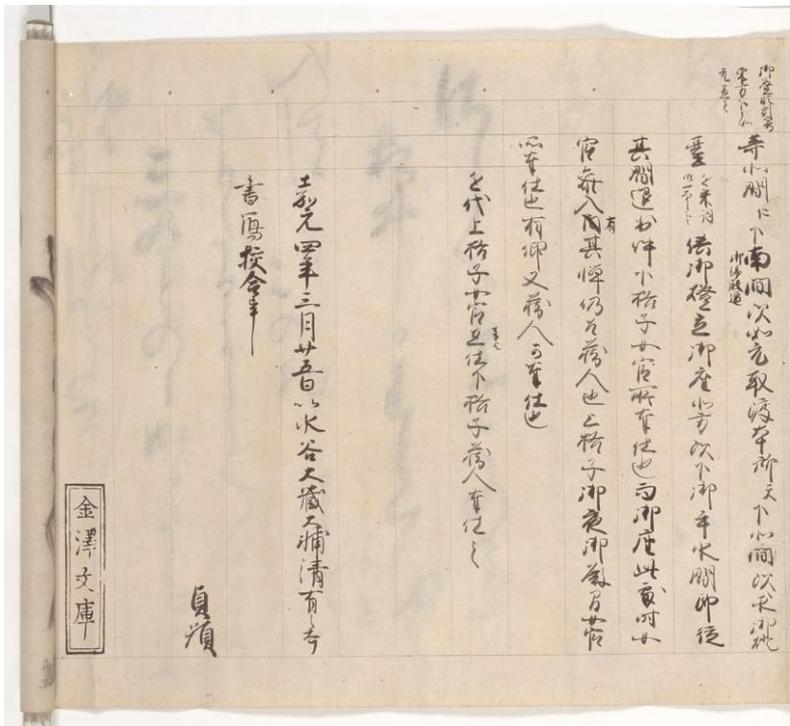


【ざっくり現代語訳】  
御文庫の本を写したよ  
天明六(1786)年四月十一日 葎庵河村秀根



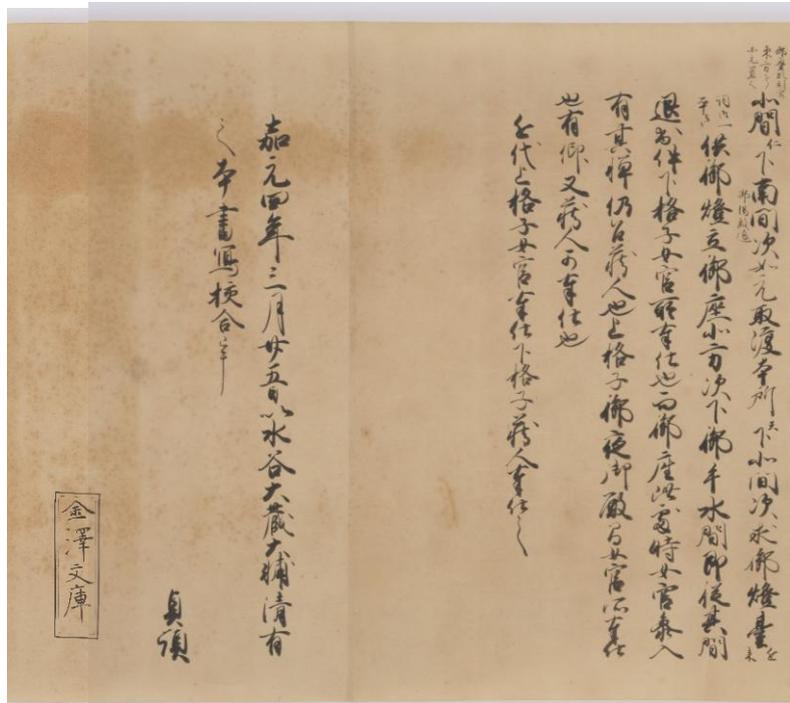
金沢文庫本（1306年写）

北条貞頭の京都・六波羅探題在任中に書写させたもの。巻末に「貞頭」の署名と「金沢文庫」の印が見える。蓬左文庫所蔵



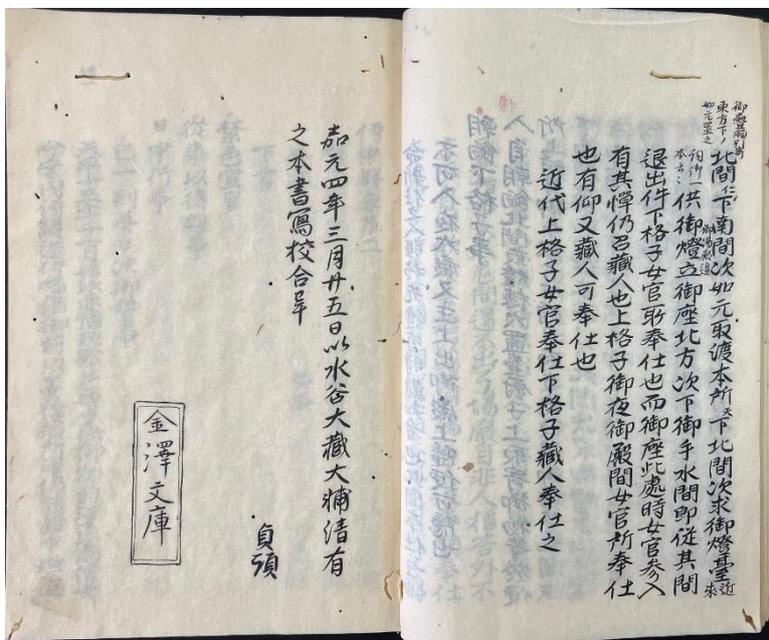
寛永元年写本（1624年写）

尾張藩初代藩主である徳川義直が、天皇から貸出の要請を受け制作させた。巻末の「金沢文庫」印は手書きで写し取られている。蓬左文庫所蔵



河村文庫本（1786年写）

河村秀根が寛永元年写本を写したものを。尾張藩の学問研究の根底の一つに金沢文庫本があったことが伺える。鶴舞中央図書館所蔵



見比べポイント…河村秀根が寛永元年写本をもとに写したと推察されるその理由！

- ・ 文字の配置。寛永元年写本と河村文庫本は改行が一緒。河村文庫本は寛永元年写本を謄写している！
- ・ 寛永元年写本と河村文庫本の「金沢文庫」印、「澤」の偏と傍の間隔や「文」の字の筆運びが、なんか似てる！
- ・ 4行目 金沢文庫本は見え消しで「有」と右に書いているのを、寛永元年写本と河村文庫本は修正後の「有」のみ記載！